

親潮

第 304 号
平成 26 年度 第 2 号

OYASHIO

北水同窓会誌

2014
304
No.2

北水同窓会 <http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp>



特集 北水の今

七飯淡水実験所 新実験施設の竣工

□北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 七飯淡水実験所 竣工記念式典・祝賀会
□追悼 □各種行事開催報告 □クラス会報告 □寄稿 □書評 ほか

親潮

第 304 号
平成 26 年度 第 2 号
OYASHIO

CONTENTS

第95回(2015年)北水同窓会定期総会 開催案内	3
特集 北水の今	
七飯淡水実験所 新実験施設の竣工	4
山羽 悅郎(昭55才)	
私の七飯養魚実習施設時代の想い出	7
小野里 坦(昭37才)	
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 七飯淡水実験所 竣工記念式典・祝賀会	9
原 彰彦(昭46才)	
追悼	10
徐雲鵬(昭19才)／山田 勤郎(特別)	
北海道大学ホームカミングデー 水産学部卒業生のつどい 2014	13
水田 浩之(昭61才)	
支部会・クラス会報告	14
第19回臥洋会(昭和36年卒同期会)開催報告	
第11回 昭和37年卒 同期会	
北水同窓会広島県支部会'14報告	
昭和39年入学・昭和43年卒業同期会報告	
第二回「漁火会」開催報告	
平成26年度北水同窓会大阪府支部会報告	
北水同窓会石川県支部会 報告	
寄稿	22
小野 達夫(平元才)	
木村 修 先生が退職	23
うしお丸船長 亀井 佳彦(昭61才)	
書評	24
学位取得者	25
会員の異動	25
会員死亡通知	26
親潮投稿規定・編集後記	26

第95回(2015年) 北水同窓会 定期総会

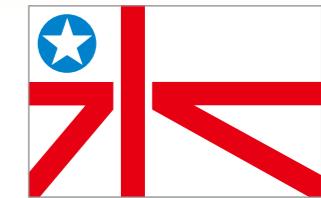
開催案内 [札幌にて開催!]

ようやく春めいて参りましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

第95回北水同窓会定期総会を下記の通り札幌にて開催いたします。

青葉香る北国のもさわやかな季節にお集まりいただき、この機会に同期会を開催されてはいかがですか。

多数の同窓のご出席をお待ちしております!



日 時 ● 2015年5月23日(土)

H27札幌支部総会は第95回定期総会と同会場で実施

会 場 ● 札幌サンプラザ 2階 金枝の間

〒001-0024 北海道札幌市

北区北24条西5丁目1-1

Tel:011-758-3111

アクセス [交通機関ご利用の場合]

地下鉄南北線「北24条駅」で下車

1番出口から出て西へ200m(徒歩3分)

- 駐車場は建物西口が出入りとなります。
駐車料金1時間 340円
以降 30分毎 170円
ご宿泊の場合 1泊600円

受付 ● 15:30~

総会 ● 16:00~18:30

16:00 ~ 札幌支部総会

16:05 ~ 北水同窓会定期総会

16:50 ~ 懇親会

総会費 ● 6,000円

札幌支部会員は支部会費1,000円を別途頂戴します。

総会当日75歳以上25歳未満の方は総会費無料、同伴の場合、奥様は半額。



お申し込み先

参加ご希望の方は、別紙の申込用紙にご記入の上、**4月22日(水)までに**
北水同窓会本部宛へFAXまたは郵送にてお申し込み下さい。

また、申込用紙に記載の事項を、E-mail(alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp)
にてご連絡頂いてもかまいません。

七飯淡水実験所新実験施設の竣工

山羽 悅郎(昭55ゾ)



■新施設の外観:手前が飼育棟、奥が研究棟

七飯淡水実験所は、北海道大学水産学部の前身である函館高等水産学校での養魚実習のために民有地を購入したことに始まります。水産学部の発足後、学部の養魚施設として昭和34年から昭和51年にかけて敷地内に教育研究のための施設が整備されました。その後、近年にいたるまで建物の大きな整備ではなく、老朽化・狭隘化が進んできました。長い年月を経た木造の古い施設は、教育・研究の実施にも支障をきたしていました。しかしながら、昨年11月に、悲願であった新研究棟が竣工し、12月5日に竣工式及び祝賀会が開催されました。本紙面では新しい七飯淡水実験所(旧 七飯養魚実習施設)の紹介をいたします。

■歴史と沿革

七飯淡水実験所は、1940年(昭和15年)に、「魚類の人工増殖及び繁殖保護に関する学理とその応用の研究及び教育」を目的として、函館高等水産学校に養魚実習場が開設されたことに始まります。1949年(昭和24年)に北海道大学水産学部の附属施設となって以降、1959年(昭和34年)に養魚実習施設が新築され、1966年(昭和41年)に研究施設「七飯養魚実習施設」として、助教授1、助手1の定員が配置されました。ここから、水産学部に附属する七飯養魚実習施設として教育・研究



に大きな貢献をしてきました。2001年(平成13年)に、北海道大学農学部、理学部、水産学部に所属している生物系の附属施設と共に「北方生物圏フィールド科学センター(FSC)」に統合され、現在に至っています。統合後は、「七飯淡水実験所」と名称変更をしています。

初代の施設長は、水産学部の淡水増殖学講座の教授でおられた山本喜一郎先生が勤められました。その後は、専任の久保達郎先生(昭和41~58年)と小野里坦先生(昭和58~61年)、兼任の高橋裕哉先生、専任の原彰彦先生(昭和62~平成7年)と続き、現在は山羽が所長を勤めています。

七飯淡水実験所は、水産学部の増養殖実習や学生実験、講義などで学部教育をサポートしてきました。また、北海道大学の1~2年生を対象とするフィールド型の演習や全学教育、水産科学院や環境科学院における大学院教育を行っています。また、社会教育として、函館水産高校や新潟海洋高校の実習、道南地域の小中学校のサケマス教室を行っており、人材育成プログラム、未来の科学者養成プログラム、北海道福島町や青森県鰯ヶ沢町のイトウ養殖指導などにも対応してきました。

これまで、サクラマスおよびイワナ類の生活史変異の解析、魚類の染色体操作に関するバイオテクノロジー

開発、免疫生化学的なアプローチによる魚類の成熟機構、サケ科魚類の人工種苗生産に関する研究が行われ、現在は、魚類の発生工学に関する研究が行われています。また、水産科学研究院などの生殖生物学、発生遺伝学、魚病学等様々な研究をサポートしています。

■飼育設備

魚を飼育するために、河川水利用の20面のコンクリート池、井戸水を使用する屋内飼育室、および18と24℃の恒温室があります。

屋外の池のうち上流部にある16面のコンクリート池は、平成24年に改修されたものです。平成21年の集中豪雨による大量の土砂により、飼育していた1700尾以上のサケマス類の親魚が失われました。当時は、土砂を溜める沈殿槽が小さく、また飼育池も方形で四隅に土砂が溜まりやすいものでした。集中豪雨後に視察に来られた総長の佐伯浩先生が予算を措置してください、平成24年の冬に新しい池を作ることができました。当時の技術職員であった木村志津雄さんが土砂の溜まらないように円形池を設計し、その結果、水が回転することで土砂や排泄物が溜まらず、飼育魚に適度な運動を与えることができる池となりました。

今回、竣工された屋内の飼育設備には、木村式高密度飼育水槽(マルチハイデンス水槽)の他、サケマス用の多段式孵化槽、平槽、FRP水槽が整備されています。これらへの飼育水は平成25年に掘削された新井戸から井戸水が供給されています。これまで、サケマスの飼育のための井水は、24時間間断なく汲み上げて水槽に流し込んでいました。そのため、停電で井水の供給が止まると魚の大量死につながりました。新しい施設で



■屋内飼育室

は、自家発電装置により停電に対応しています。また、飼育室の地下に90tのプールを設け、そこに井水を溜めています。そのため、何らかの原因で井水の供給が止まつても、1時間程度は飼育水を流し続けられます。その他、事故で飼育魚を失わないよう様々な安全対策を施しています。

さらに、一度使用した井水から残餌や排泄物を取り除き、再使用できるように沈殿槽を設置しています。これにより、沈殿物でイトミズなどの餌料生物を培養し、処理後の水で魚を飼育できるようにしました。

恒温室は、温水によって温度管理され、一定以上の温度に上昇しないようになっています。また、遺伝子組み換え魚などの飼育に対応できるように、脱走防止の構造にし、暗証番号付きの出入り口となっています。

■沈殿槽:屋内飼育室で使われた井水の再利用に使われる



■屋外円形池:河川から流入した土砂で稻を栽培し、さらにキンギョを養殖している

■飼育魚類

現在、イトウや大西洋サケなどのサケマス類12種19系統を主として飼育し、再生産を行っています。また、実験魚としてゼブラフィッシュやキンギョなどのコイ目魚類数種を飼育し、周年的に採卵する必要のある研究に供給しています。さらに、水産学部内の飼育施設では飼育できない大型のチョウザメ親魚を飼育し、生殖生理学的な研究をサポートとともに、再生産した稚魚の飼育を行っています。これらの魚や卵は、水産学部の教育・研究に供されるとともに、国内の大学・水族館等に供給されています。



■イトウを用いた口ガ一開発

新実験棟の平面図



■室内設備

研究棟の室内には、学生室、実習室、薬品庫と培養室とドロフト室

を付帯する実験室と、顕微鏡室をもつ実験室が整備されました。また、福利厚生のための多目的室、男女シャワー室が整備されました。

実習室の整備により、これまで、屋外にテントを設置して行っていた増養殖実習などの実習を、荒天時にもできるようになりました。実習室自体は25名程の実験を行うスペースですが、同程度の屋外ポーチを利用することで多人数にも対応できます。多目的室を休憩室として用いることで、夜間での長時間の実験にも利用可能となりました。

■将来に向けて

本実験所は、魚の養殖のための施設として設置されました。飼育が困難であった魚種を養殖するための研究や、その養殖から派生する様々な問題を解決する研究に対応してきました。そのため、ともすればコストを度外視してきた面があります。日本経済が停滞している中、電気料金の値上げが行われています。大学の一地方施設でさえ、コスト計算が求められています。近未来的に、生産した魚の商業的な利用に対応しなければな

りません。

一方、今日の養殖は、餌資源や魚病等、様々な問題に対応することが求められています。養殖自体がもたらす水質汚染や遺伝子汚染等の環境汚染にも対応しなければいけません。そのためには、魚だけを飼育しているだけの施設ではいけないと考えています。そこで、排水の2次使用を行うとともに、イトミズの培養ができるようにしました。また、北大の他の生物系の施設と連携し、流入する土砂や飼育の過程で発生する汚泥などを利用し、農作物の栽培などを行う実験を始めています。

本実験所は、定員としては教員1名、技術職員1名の北大としては最小の施設であります。しかし75年間での教育・研究への貢献は、他の数多くの北大施設に劣る物ではないと自負しております。そして、新しい飼育、教育と研究のための施設ができたことにより、これまで以上に教員と学生の研究をサポートすることが出来るようになりました。自前での実習を含む教育、独自の発想で進める研究も求められていますが、学内共同利用施設としての当実験所の役割は、「使ってもらってなんぼのもの」と考えております。大学が法人化され、企業などからの利用も可能になってきています。教育研究に使用したい魚の供給に対応するのみならず、新しい魚種の飼育や、飼育方法の開発、魚の野外観察など、ご相談に応じて出来る限りの対応をして行きたいと考えております。皆様からのご利用をお待ち申し上げております。

私の七飯養魚実習施設時代の想い出 (1983年4月～1986年3月)

小野里 坦(昭37ゾ)

私が七飯に赴任した年は忘れられない年となった。水産学部の発生学・遺伝学講座で助手をしていた時代から行っていた研究、魚類の染色体セット操作が完成し、その成果が朝日新聞の第一面のトップ記事として報道されたからである。その反響は凄まじいものであった。それもそのはず、この技術を使うと紫外線ランプ(当初はガンマ線を使った)とぬるま湯または氷水(当初は水圧を使った)を用意するだけで、子供を全て雌、または雄だけにまた、不妊にすることもできた。絶滅した種をその精子さえ凍結保存してあれば、異種の卵を借り腹として、その種を復活させることができる。また、一卵性双生児の様に遺伝的に全く等しい個体(クローン)を一気に何百何千と作れるまさに魔法の技術だったからである…。当時、遺伝子組み換えなどの生命工学が注目され出した時期と一致したため、テレビ、新聞、雑誌の取材や、講演依頼や研修依頼が後を断たなかった。シアトルでさけます生産に関するシンポジウムで一連の染色体操作について講演したのは、新聞報道の直後であった。すでにアメリカでも話題になっており、講演の後、日本の学会では受けたことのない大拍手を受け、いくつかの報道機関からも取材を受けた。

もう一つ、七飯時代の忘れられないことは留学生を引き受けたことである。赴任した年の4月からアラスカのFish & Gameの職員、Tom Kronさんを1年間受け入れた。彼は奥さんと男の子3人を連れてやってきた。長男が丁度、小学校1年の学齢期に当たったため、七飯町にあるチーフーキリスト教学園に入学させることができた。Tomさんの留学で英語を話すチャンスができると期待



左から木村技官、筆者、Kron夫妻 白尻実験所にて

したが、彼は日本へ来た以上、日本で英語は話さないとの意思が固く、期待はずれに終わった。しかし、シアトルでのシンポジウムの原稿書きや発音では随分とお世話をになった。彼ら家族は七飯住民との付き合いも深く、帰国時には町民が盛大な送別会を企画してくれた。

Kronさんの帰国後、今度はフランスのOdile Le Qwintrecさんがやって來た。彼女は染色体操作技術を駆使してサクラマスの酵素遺伝子の動原体距離を求める研究を行っていった。

Kronさんには後日談がある。私が七飯から三重県の養殖研究所に移って、外国人研究者を雇える予算がついた。そこで、アイダホ州立大学から魚類遺伝の研究者、Jim Seebさんに来てもらった。彼の奥さんも魚類の研究者で、2人の男の子を連れてやってきた。帰国するときはイリノイ州立大学に新たな職を得てシカゴへ向かった。その数年後、彼はアラスカのFish & Gameに転勤になりKronさんの直属の部下に配属された。しかし、二人共私のところにいたことは知らず、しばらく経って、日本へ留学していたことが話題になり、互いにびっくりしたこと。Seebさんは現在、ワシントン大学に移っている。話はまだ続く。私は養殖研究所から信州大学に移り、退職後民間の微生物研究所に席を置いた。その時代にNCのデューク大学の学生が研究を手伝わせて欲しいと夏休みの期間やってきた。彼は大学を卒業後、なんとSeebさんのいるワシントン大学の大学院に入学し、今年学位を取る予定である。

私の前任者、久保達郎教授はサクラマスの生態を専門としていた。従って、池や水路、大型水槽を使って実験していた。しかし、私の仕事は遺伝を主体とした仕事で、実験魚を小分けして飼育する必要がある。20リットル程度の小型水槽を大量に必要とした。当時、全国各地から講演や指導の依頼が相次ぎ、飼育装置を見る機会があった。さけます飼育に最も好ましい水槽はロト型の円形水槽で中央の底部から排水できる方式であった。その方式を図に描いてこの方式で20リットル程度の小型水槽を作りたいと木村技官に話したところ、プラスチック製の広口ビンの底をくり抜いて、逆さにセットする案が提案された。この水槽は実際に機能的でカラフトマスを成熟するまで高密度で飼育することが可能となった。想い出多い七飯淡水実験所、建て替えに当たって事故を回避するための様々な工夫が山羽所長によってなされ、私の時代とは様変わりした。ますますの発展を祈念したい。

北大では、卒業生の皆様にご利用いただけるWebサービス「アットフロンティア」をスタートしました。フリーメールの手軽さで北大ドメインのメールが使える、他の卒業生との連絡機能も搭載。校歌や寮歌の演奏データがダウンロード可能なほか、北大発のイベントやビジネス情報も入手できます。生涯使えるメールアドレスで、他の卒業生や北大と、生涯つづくコミュニケーションを。

利用資格は“北大卒業生”、利用料は無料です。

北大ドメインのメールアドレスを無料でご提供します。

無料で取得できる hokudai.ac.jp ドメインのメールアドレスは、メールソフトからも Web メールとしても利用できますので、フリーメールのように便利なのに、北大ドメインなので高バリューです。利用期限がありませんので、普段使いのメールアドレスとしてご活用ください。もちろん、いつも使う職場や携帯電話のメールアドレスに転送することもできます。

北大の四季やイベント、研究成果やビジネス情報も。

北大で行われるイベント情報や、キャンパスに訪れる四季の様子など各種お知らせを毎月お届けします。北大発のビジネス情報、話題の講演会、画期的な研究成果からサークルの活躍まで、多彩な内容でお送りします。

なつかしの寮歌や校歌を携帯電話・PC でダウンロード。

あの日歌った校歌や寮歌も、時間が経つとうろ覚えに…そんなときは、@Frontier で歌詞やメロディをしっかりチェックしましょう。“北大人”的集まりには欠かせません。もちろん、携帯電話の着信メロディにも使用できます。

登録ユーザ同士で検索して、連絡先を管理。

独自のアドレス帳機能で、他の卒業生との連絡手段として活用できます。連絡先が分からなくなってしまった相手でも、氏名や学部学科など特定の情報が分かれればメッセージをお届けします。

※送信相手は@Frontier メールアドレスを取得した卒業生に限ります。

@Frontierに関するお問い合わせは、北海道大学総務企画部広報課 (info@frontier.hokudai.ac.jp/011-706-2012) までお気軽にお寄せください。



@Frontier 新規登録申請方法

① Web サイトにアクセス

二次元バーコードを携帯電話で読み取るか、携帯電話・PC ブラウザで次の URL を入力してアクセスし「新規登録申請」をクリックしてください。
<http://www.frontier.hokudai.ac.jp/>



② 氏名や卒業学部を入力

登録申請フォームが表示されるので、必要事項を入力して申請手続きを行ってください。



③ アカウント送付

北大事務局により、卒業事実確認を行います（この作業にはお時間をいただく場合があります）。確認完了後、アカウント情報(ID およびパスワード)を E メールまたは郵便で送付します（通知方法は申請時の連絡先に E メール・ご住所のどちらを指定したかによって異なります）。

@Frontierに関するお問い合わせは、北海道大学総務企画部広報課 (info@frontier.hokudai.ac.jp/011-706-2012) までお気軽にお寄せください。



学生支援の「北海道大学カード」

北大人の証明

北海道大学連合同窓会が発行する「北大カード」は、
北大人としての証です。
(北大同窓生、在学生父母及び教職員限定)

特典

附属図書館の入館証
植物園の無料入園証
北大カード協力店の割引・優待
北大出版会書籍割引
希望者へ結婚式への祝電サービス
(総長・連合同窓会長連名による)
カード会社からの各種サービスなど
(詳細は申込書等をご覧ください。)

一般カード



カードの利用額に応じて提携手数料がカード会社から還元されます。これを「学生支援資金」として奨学金などの学生支援に活用します。

一般カード
年会費10,000円（税抜）

お申込について

- 専用の申込書を下記あてご請求ください。専用申込書を送付いたします。
- 専用申込書に所定事項を記入・捺印いただき、ご投函ください。
- カード会社の審査を経て、お申込から約1ヶ月後にカード会社から配達記録郵便にてご自宅あてお送りいたします。

北海道大学連合同窓会事務局（北海道大学総務企画部広報課）

〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

電話：011-706-2012

E-mail:kouhou2@jimu.hokudai.ac.jp

申込書ご請求先

※UCカードのホームページからも、申込書を請求できます。

（ホームページ下部の「資料請求」からお進み下さい。）

<http://www2.uccard.co.jp/join/college/hokudai.html>

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 七飯淡水実験所 竣工記念式典・祝賀会

原 彰彦(昭46ゾ・名誉教授 前七飯養魚実習施設長)



内覧会の一幕

円形水槽の説明を受ける参加者

山羽所長による講演

山口総長へ
説明する
山羽所長



出席者一同で乾杯



本村フィールド科学
センター長式辞



山口総長祝辞
安井水産研究院長
祝辞



原前施設長祝辞
祝辞
佐伯前総
長による祝杯

式典に先立ち、内覧会が平成26年12月5日午後2時から新築された七飯淡水実験所において挙行されました。天気には恵まれましたが、少々寒い日がありました。山口圭三北海道大学総長をはじめ三上隆副学長、村田直樹事務局長らを迎えて、総勢約50名の参加者が集いました。山羽悦郎七飯淡水実験所長の挨拶に引き続き、二班に分かれ山羽所長並びに高橋英佑技術職員により順次新棟内部の詳細な説明を受けました。特に飼育室はこれまで分散されていた飼育室が一つにまとまり、旧施設とは雲泥の差がありました。また館内の新しい実験室、恒温室はこれまでにない充実したものとなっておりました。内部の見学の後、平成24年に完成した室外の円形飼育池を見ながら、内覧会は終了しました。予定時間より早く終了しましたが、その後、式典・祝賀会の会場へとバスで移動をしました。

函館国際ホテルへ場所を移し、17時から七飯淡水実験所竣工記念式典・祝賀会が挙行されました。

司会の松岡典子北方生物圏フィールド科学センター事務長による開会の辞に始まり、本村泰三北方生物圏フィールド科学センター長より式辞があり、これまでの経緯などの説明がありました。その後3名の方から祝辞を頂きました。初めに山口総長より、北海道大学の教育・研究に貢献し、地元の皆様に愛される施設として地域とともに発展するようにとのお言葉がありました。続いて安井肇水産科学研究院長より、初代の久保達郎先生、二代目小野里坦先生、三代目の私とのこれまでの繋がりについて話されました。その後、私が当時の七飯養魚実習施設の様子を若干話させて頂きました（後述）。

祝電披露の後、佐伯浩前総長（寒地港湾技術研究センター代表理事長）により祝杯の発声を賜りました。暫しの歓談後に山羽所長による「七飯淡水実験所の過去、現在、そして未来」と題するスライドを用いた講演があり、最後に宮田東七飯町副町長による乾杯で式典は盛会のうちに終了しました。

七飯養魚実習施設を振り返って
私は七飯淡水実験所の前身である水産学部附属七飯養魚実習施設に昭和62年から11年あまり勤務していました。当時水産学部附



平成元年鳴川を手前に農家と研究棟



今は無いコイ池
平成2年当時の旧研究棟



平成3年井戸水出る

追悼寄稿

慈父徐雲鵬（昭19セ）を偲んで

徐雲鵬の娘 徐莉



私の父・徐雲鵬が、2014年8月19日に病気のため中国大連にて亡くなりました。享年93でした。父は、1944年9月に北海道大学水産学部水産製造科を36期（昭19セ）生として卒業し、中国では大連海洋大学で教授として長年教鞭を執っていました。

父は、生前遼寧省漁業代表団のメンバーとして懐かしい母校・函館水産学部を訪れ、恩師あります谷川英一先生に再会できたほか、秋場 稔学部長を初め多くの同窓生に会うことができました。

父は、北海道での母校やその時の同窓生に関してはとりわけ深い思いを抱いていました。私が幼い時、父から母校での生活などをよく聞かされたものです。様々なエピソード、その一つ一つが私の父にとってとても懐かしい思い出であったらうと思います。

父が入学した初日、夜になって同級生に起こされ、廊下を走るよう言われ、不思議に思いながら走っていると思いもかけず、高学年の先輩達に冷たい水を浴びせられたことがあります。あとから知ったのですが、新入生に対する歓迎儀式だったそうです。

当時食料が不足していて、学生たちはいつも御腹をすかせていました。ある同級生が近所の

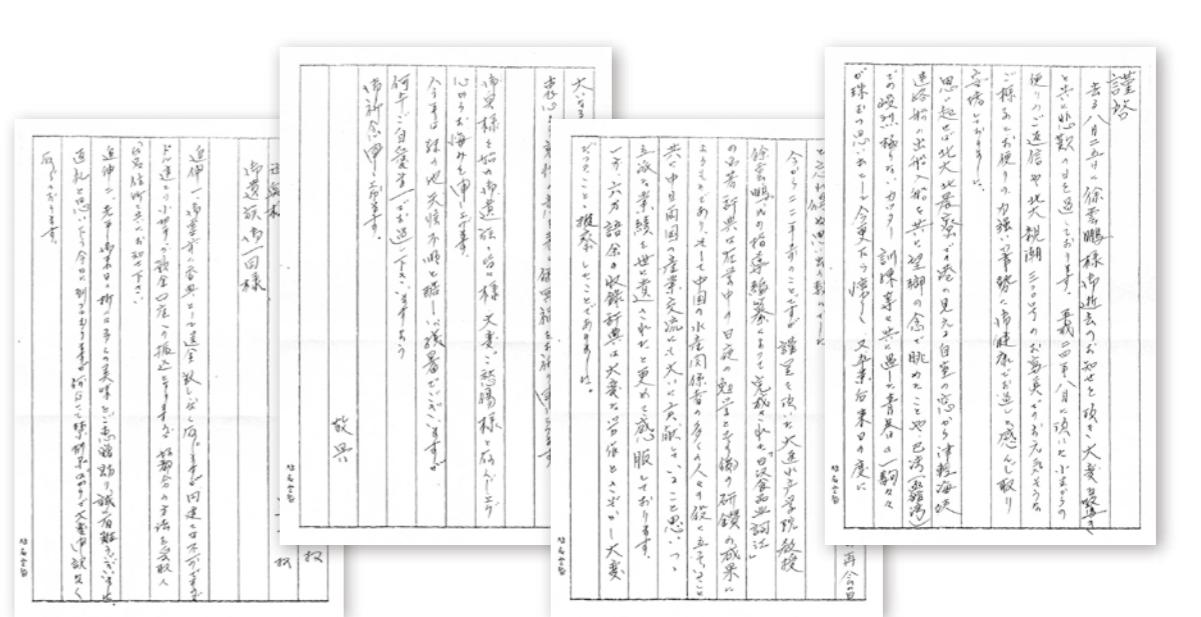
農家の芋を取ってきて食べたそうです、すると、その農家の人人が学校にそのことを訴えてきたので、その芋の欠片すら口にしていない（恐らく分けてもらえたなかったであろう）学級委員の神山茂郎さんが身代わりとなり、その農家の方に叱られ、平謝りに謝る羽目になったとか。あの時の父は体重が軽くて、山岸保雄様との相撲の練習ではいつも黒星にされていたそうです。また、ルームメイトの根津允雄様と一緒にテストの準備でいつも夜更かししていたお話をよく聞かされました。

日中国交が回復した後、父は1978年に再度日本の土を踏むことができました。あの時、羽田空港において総勢38名の同窓生の出迎えを受けました。皆様とは35年ぶりの再会でしたが、父は同窓生一人一人のお名前を呼び、同窓生たちのあだ名まで覚えていた 것입니다。この感動の再会が、当時の朝日新聞の一面に美しい物語として写真付きで取り上げられたのです。その後、父は遼寧省漁業代表団のメンバーとして8回にわたって日本を視察訪問しています。日中友好関係の構築に微力ではありますが、父なりの努力と務めを果たしてきたと思います。

近年父が高齢のため自力での行動がますます困難になり、2012年8月に娘の私が初めて父に代わって函館水産学部を訪問させて頂くことができました。父の通っていた母校のキャンパスに足を踏み入れ、実際に60年前に父の生活していた場所を目の当たりにし、胸が熱くなり、涙を禁じ得ませんでした。

父は、学校から送られてくる刊行物『親潮』や『会員名簿』をとても大切に保管していました。度々取り出しては眺めていたものです。同窓生が亡くなると、悲しい胸中をよく打ち明けてくれていました。そして『親潮』第300号21ページに家族の写真が掲載されたので、音信が無いクラスメートと連絡を取れるかと嬉しく思いました。

最後に、ここに慈愛深い我が父のご冥福を祈ると同時に、父の同窓生の皆様のご健勝を祈願して私の追悼文を終わらせて頂きます。



謹啓

去る八月二五日に徐雲鵬様御逝去のお知らせを頂き、大変な驚きと共に愁歎の日を過しております。平成二四年八月に頂いた小生からの便りのご返信や北大親潮三〇〇号のお写真での元気そうなご様子とお便りの力強い筆勢に御健康でお過しと感じ取り安堵しておりました。

思い起せば北大北晨寮での港の見える自室の窓から津軽海峡連絡船の出船入船を共に望郷の念で眺めたことや、巴湾（函館湾）での峻烈極りないカッター訓練等々共に過した青春の一駒々々が珠玉の思い出として今更乍ら懐しく、又卒業後来日の度に旧交を温め、そして最後となった東京品川プリンスホテルでの再会の日と忘れ得ぬ思い出の数々でした。

今から二二年前のことですが謹呈を頂いた大連水産学院教授徐雲鵬氏の指導編纂によつて完成された「日漢食品業詞江」の名著辞典は在学中の日夜の勉学とその後の研鑽の成果によるものであり、そして中国の水産関係者の多くの人々の役に立っていることと共に中日両

国の産業交流にも大いに貢献していること思いつつ、立派な業績を世に遺されたと更めて感服しております。

一方、六万語余の収録辞典は大変な労作とさぞかし大変だったことと推察したことありました。

大いなる親友を失ったこと歎き乍ら、衷心より哀悼の意を表し御冥福をお祈り申し上げます。

御奥様を始め御遺族の皆々様、大変ご愁傷様と存じ上げ心からお悔みを申し上げます。

今年は殊の他、天候不順と酷しい残暑でございますが何卒ご自愛第一でお過し下さいますよう御祈念申し上げます。

敬具

平成二六年八月二八日

御奥様

御遺族御一同様

根津允雄 拝

豊子 拝

追悼寄稿

山田壽郎先生(特別)のご逝去を悼んで

都木 靖彰(昭59ゾ)

北海道大学名誉教授山田壽郎先生は、平成27年1月10日、享年86にてご逝去されました。ここにご生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

山田先生は昭和4年3月22日東京にお生まれになり、昭和27年3月北海道大学農学部水産学科を卒業されました。同年4月北海道大学農学部水産学科助手に任命され、同28年4月北海道大学水産学部に配属換となりました。その後、昭和43年4月助教授、同46年4月教授に昇任され、増殖学科生理生態学講座にて教育研究に活躍されました。平成4年3月に停年により北海道大学を退職され、同年4月北海道大学名誉教授の称号を授与されました。また、昭和36年には「キンギョ鱗の構造と成長に関する研究」により、北海道大学より農学博士の学位を授与されました。

北海道大学水産学部ご在任中は、多数の学生を薫陶するとともに、生理生態学講座の研究・教育体制の確立と整備充実に尽力され、十余名の博士学位取得者を育て上げて魚類生理学および生態学分野の発展に大きく寄与されました。山田先生の元で学位を取得した方々の大部分は、水産学や海洋学、理学分野の大学や公的研究機関等において、研究者・教育者として第一線で活躍しています。

山田先生は研究面でも国際的に活躍されました。その研究成果の中で特筆されるのは、魚類硬組織の形成機構を明らかにするとともに、硬組織の微細構造を精査することによりその個体の生活履歴の解析が可能であることを実証した点です。まず年齢査定形質として多用されている魚鱗について、その構造、代謝、成長等の様態をおもに電子顕微鏡を用いて明らかにしました。山田先生が撮影された美しい電子顕微鏡写真の数々は、この分野の研究者の座右の書として現



在でも高く評価されています。また、魚類の耳石に見られる微細輪紋の形成が日周性を有することに着目し、従来不可能であった稚仔魚の齢査定法を確立して、魚類の初期生活史の研究分野に多大な貢献をされました。魚類における生理学的研究成果をその生態学に結びつけたこれらの研究成果は、まさしく山田先生が指導された生理生態学講座の名にふさわしいものといえます。さらに、山田先生は種々の国際共同研究を主宰するとともに、魚類の耳石や生殖に関する国際シンポジウムの企画・運営に参画して国際学術交流を積極的に推進されました。1993年に米国東海岸ヒルトンヘッドにて28カ国260人の研究者を集めて第1回国際シンポジウム「耳石：その研究と応用」を成功させたことは、山田先生の特筆すべき学界への貢献です。このシンポジウムは、幼稚魚の生態研究における耳石日周輪応用の可能性が明らかになるにつれ、耳石の応用研究者からその発生、構造、成長生理などの基礎的知見を求める声が高まったことから、この分野の第一人者であった山田先生が準備段階から熱心に参画され、成功に導いたものです。このシンポジウムに対する山田先生の貢献度の高さは、730ページの大冊となった記念すべき初回議事録が先生に献呈されたことからもうかがえます。このシンポジウムがきっかけとなってその後もたびたび世界各地で耳石に関する国際シンポジウムが開催されることとなり、最近では2014年にスペインマヨルカにて開催されたところです。

学会活動においては、日本水産学会評議員、同学会賞推薦委員、日本魚類学会評議員を歴任し、学会の発展のために尽力されるとともに、昭和54年以降は国際学術雑誌、Journal of Experimental Marine Biology and Ecology(英国)の編集委員として活躍されました。また、学内にあっては、数次にわたり北海道大学評議員として大学運営の枢機に参画するとともに、各種委員を歴任し、北海道大学の発展に寄与されました。

以上のように山田先生は、永年にわたって学術の振興、教育、人材の育成、北海道大学の管理運営等に貢献されました。

ここに謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

各種行事開催報告

北海道大学ホームカミングデー 水産学部卒業生のつどい2014

水田 浩之(昭61ゾ)



平成26年9月27日(土)に北海道大学百年記念会館大会議室において、「ホームカミングデー水産学部卒業生のつどい」が行われました。

講師として国立科学博物館標本資料センター・コレクションディレクターの窪寺恒己氏(昭50ゾ)をお招きし、「ダイオウイカ、奇跡の遭遇～最新技術で迫る深海の世界～」のタイトルで一般講演会を開催しました。

講演会には卒業生と学部学生を含め約70名の方が来場され、世界を驚愕させたダイオウイカの生態に迫る様々なエピソードとそれに関わった研究者との交流などを御紹介いただきました。特に、学部学生は目を輝かせながら聞き入っていました。講演終了後も、積極的に講演者へ質問している姿と、それに対して丁寧に説明されておられる講演者を拝見し、「同窓のつどい」の何とも言えない温

かな雰囲気を味わうことができました。

その後、百年記念会館レストランに会場を移して行われた懇親会では、同窓生約30名が窪寺氏を囲みながら親睦を深めあいました。



クラス会 報告

第19回臥洋会 (昭和36年卒同期会)開催報告

鈴木 賢一(昭36セ)

平成26年の臥洋会は10月19日-20日の一泊二日の旅程で目的地東伊豆の熱川温泉を会場として開催した。計画決定後春から開催予告を発信し、9月には最終の案内で出席者は確定したが加齢による事情か直前の欠席通知があつたりして、年々参加者は減りこそすれ、増えはしないのは残念であるが、今回は22名の参加となった。

参加者

(漁業)斎藤 穀
(遠漁)滋野三樹、野村 勝、山口 隆、和田 厚
(製造)浅倉健治、石川光男、大野正浩、古東宣勝
斎藤爾朗、鈴木賢一、角田靖雄、新田 實
西川雄造、深谷 煉、藤井 明、澤田真治
(増殖)石川徹二、尾身東美、西村正義、町田建治
松井 鹿

臥洋会は昭和36年水産学部卒業の4学科連合の同期会で、当初は幹事を各学科が回り持ちで行い毎年開催とは限らなかったが、最近は歳を重ねるとともに、元気で集まれる間は毎年開催しようと言う声が強く、毎年の開催となっている。

幹事は学科回り持ち、地区毎の幹事担当が世話をしてきたが、このところ名幹事として万年幹事長を引き受けてくれる石川光君のサービス精神に負んぶして継続している。

今回は参加者が北海道、関東周辺、静岡、愛知、大阪と分散しているので空路の羽田、陸路東京の2か所を集合地として、全行程貸切サロンバスで出発。東名経由箱根、伊豆スカイラインで伊豆半島の背骨を通り太平洋の眺望を楽しみつつ目的地に向かった。と言ってもサロンバスを使うのは旅行の最大目的が観光ではなく、お互いに近況を語り(歳と共に病気の話題が多くなったようであるが)また今回不参加の仲間の様子を報告、その

間に飲む事も忙しく、窓外の風景は二の次であつたようである。

夕刻目的地着、宿は「志なよし」 热川温泉の開祖とされる太田道灌の像が立つ海岸にあり、かつてテレビで放映されていた“細腕繁昌記”的写真が宿のロビーに飾られ、若き日の新珠美千代が懐かしく迎えてくれました。

早速天然温泉掛け流しのジャングル大岩風呂で汗を流したあと、町田氏の司会で夕食会が始まり、最初に最近計報が届いた池田(遠)川村(製)両君の冥福を祈って黙とうを捧げ、久し振りの参加となった斎藤君(製)の発声で乾杯し開宴となつた。

往路のバスでかなり積み込みのアルコールも消化した筈だが、話ははずみ次回開催地は函館と盛り上がったところで定番和田君(遠)の名音頭で「都ぞ弥生」、「北晨寮逍遙歌」を高唱し氣勢をあげた、その後松井君(増)の中締めで一次会は終了。二次会はカラオケ会場に移動しおおいに歌い、かつ歓談して本日の行事は終了した。

翌日は途中、城ヶ崎灯台・吊り橋付近を散策、箱根芦ノ湖畔で昼食を摂り、その後羽田空港および東京駅で来年の再会を約束し解散した。



【後列左から】

澤田、斎藤爾、大野、山口、松井、斎藤穀、鈴木

【中列左から】

浅倉、和田、野村、町田、西村、西川、角田、石川光

【前列左から】

藤井、深谷、新田、石川徹、滋野、古東、尾身

第11回 昭和37年卒 同期会

沢井 佳保(昭37エ)

同期会は平成26年10月15日、函館で開催されました。製造科の絵面君、増殖の河村、沢崎、麦谷、古井君、遠漁の泉君、漁業科の山近、大割君、等、函館在住の諸君のはからいで、会場は金森倉庫群の一角に建つ「ラビスタ函館ベイ」でした。ラビスタは全国のホテル

朝食人気ナンバーワンで知られ、最上階の13階は天然温泉フロアです。

37年卒は、最初3年に一度の同期会でしたが、年齢が重なるにつれ2年に一度と変更され今回の函館は第11回の同期会となりました。出席者は夫人同伴で来函した三好、丸山、小関君ら総勢33名で、道内在住者は札幌、北広島、釧路、本州組みは青森、いわき市、新潟、埼玉、川崎、千葉、大阪、長野、兵庫等からで白髪ながら、みな意気軒昂でした。

午後3時頃からホテル入りして温泉に浸かったり、仲間と久しぶりの再会を喜び会ったりしたあと、午後6時に絵面君の司会で懇親会が幕開けし、物故者29名に黙祷を行い、幹事を代表して河村君が歓迎の挨拶をし、遠隔地の兵庫からはせ参じた吉野君の乾杯の音頭で宴に移りました。出席者全員による近況報告で話題が盛り上がり、和気藹々の夕餉を楽しみ、七重八重の年かさ同士の集いとあって昔日の思い出話は尽きませんでした。

次いで函館ベイを酔わすような小島君の“口上の調べ”に続き、円陣を組んで「逍遙歌」と「都ぞ弥生」を声高らかに齊唱し、最北の釧路から出席した菅君が締めの乾杯を行い、夜の団欒を終えました。卒業年次の、我ら若かりし学徒は153名でしたが物故された同胞は29名、所在の判明しない仲間も10数人いて、欠席者でコメントを寄せてきたのは41名でした。

「所要のため出席できず残念」、一番多かったの



は矢張り「体調不良」「次回は出席するぞ」でしたが、各人の都合もいろいろです。翌日一行は、7月に竣工した北水練習船「おしょろ丸V世」の見学を行いました。37年卒は「おしょろ丸III世」約600トンの時代で、その後「IV世」約1400トンでしたが、新船は1600トンもあり船体構造はもとより操舵室、無線装置、電気推進装置、最先端の水産資源観測装置などコンピューター制御でエレクトロ時代にふさわしい水産科学船であり、我われ一同隔世の感を強くしました。

次回2年後の同期会開催については仲間の健康状態をにらみながら検討することにして、交通の便がよい“札幌組み”に委ねられましたので後日に沢井、田畠、三浦、大長、西川、川向、平野君らと集まって話し合うことにしました。

出席者

漁業学科: 大山、田坂、田畠、馬目、三浦、山近
遠洋漁業学科: 泉、大屋、沢井、平野、三好(同伴)
製造学科: 阿部、絵面、川向、小島、秀里、山本
増殖学科: 太田、小野里、河村、菅、菅野、久保田
小関(同伴)、沢崎、西川、平本
丸山(同伴)、麦谷、吉野
以上33名

クラス会 報告

北水同窓会広島県支部会'14報告

森岡 泰啓(昭38ゾ)

この時季としては異例の暖かさであった。先ず喉を潤してから、とは演者伊藤 篤さん(平5ゾ)自らの言で、一同“乾杯の練習”もそこそこに『アサリ資源の復活にむけて』が始まった。ここまで減ったアサリを何とかしよう、との取り組みのひとつとして稚貝を護るための研究の最前線が紹介された。被せ網なる方法の試みに協力する地元の全小学生7人の様子が印象的だった。

ここにひとつサプライズが加わる。伊藤さんの街、尾道の岸壁に繋っている白い船体に「おしょろ丸」の文字を見てとれた、というのだ。IV世の生まれ変わり。船名こそ別、だが白く塗りつぶされてはいても熔接によって象られているそれは紛うことなき「おしょろ丸」。氏の驚きは参会者の「うオーッ」となった。

おしょろ丸といえば、新造なったV世を紹介する北海道新聞の特集記事が前支部長の堀田敬三さん(昭35セ)から託されていた。堂々の見開き2ページ。北水同窓会会長、総長そして学部長の鼎談が大きく掲載。新しいハード機能もさることながら、全学新入生に乗船のチャンス、また新渡戸カレッジにも活用というではないか。

規約とてない集まりであることから、年に1度開くものの“総会”といった銘を打つこともない気ままなダベリの会ながら、このところ会員による

講演が定着してきている。すこしでも多くに関心を、とのおもいをよそに出足はいまひとつ。今回はオール北大広島県とでもいってよい広島エルム会のメンバーの参加を得て賑やかな会となった。次回からはこのつながりをもとにより広く交流できれば。これは参会者全員のおもいにみえた。

支部役員が交代することになった。新しい支部長に羽原浩史(昭55化)、幹事に中山奈津子(平15海)並びに北辻さほ(平17海)の方がた。

来年も概ねこの時季に、となり、設営・会計の担当、講演の演者が決まった。新鮮な陣容による、今までとは違う何かが期待できる空気であった。

平成26年11月30日(土)午後4時から7時過ぎまで、JR広島駅ビル内のビヤダイニング広島ライオンでのことでした。



【後列左から】佐藤之紀(昭59ゾ)、羽原浩史(昭55化)
長岡俊徳(昭60農・農化)、永井達樹(昭48修漁)

【前列左から】伊藤 篤(平5ゾ)、中山奈津子(平15海)
北辻さほ(平17海)、森岡泰啓(昭38ゾ)

食品工場・厨房内 の 自主検査のお手伝いをします。 HACCP・ISO導入指導及び検証・評価・改善指導

★食品の微生物検査 ★施設類・道具・器具類の拭き取り検査 ★食品の賞味期限の設定
★食品・副資材・調理室内の微生物の除殺菌テスト ★衛生関係資材の販売
★各温度帯における保存テスト ★その他衛生指導、社員教育などご相談をお受けします。

株式会社 キュー・アンド・シー

代表取締役 奥野 和弘 昭和42年製造

松原 伸二 昭和62年化学 久保 雅俊 平成12年資源

分析室

〒065-0026 札幌市東区北26条東22丁目6-7 TEL:011-786-8300 FAX:011-786-8266
URL:<http://www.qandc-lab.com/> E-mail:haccp@qandc-lab.com

昭和39年入学・昭和43年卒業 同期会報告

中山 豊光(昭43ギ)

「はじめに」

当同期会が下記のとおり、開催されましたのでご報告いたします。

日 時:	平成26年10月13日(月)(体育の日)
	翌日解散。
場 所:	小樽市朝里川温泉「武藏亭」
代表幹事:	中山豊光(漁)
幹 事:	大野孝(遠)、眞田篤弘(化) 斎藤勲(食)、成田安孝(増)

「受付」

16:00より幹事・大野孝さんが会計担当で受付。

当日は、台風19号が日本列島を九州・四国から東海・関東を横断する中で、西日本から参加される方の交通手段への影響が心配されましたが、大阪(前日夜半から当日早朝にかけて大阪に最接近)から出席予定であった吉川圭一君(遠)のみ残念ながら欠席となり、40名が出席。現在、当同期会は、住所判明者135名なので、欠席が95名でした。このほかに、亡くなられたことが判っている方が23名、消息不明が21名あります。

宴会に入る前に、記念写真撮影を行った。今は便利なもので、宴会が終わる頃には写真ができていた。

以降、幹事・眞田篤弘さんの総合司会にて進められた。

「黙祷」

最初に前回(平成23年)浜松での代表幹事を務められた清水八州男君(遠)をはじめ、この3年間で亡くなられた池内紘一君(化)、佐々木三樹男君(遠)、軽部巧君(遠)、関本正明君(食)の5名及びそれ以前に亡くなられた方々に対し全員で黙祷をささげた。

「宴会」

我々は一番若い人が68歳で、古希を過ぎた者も多数いる。現役を進退したものも多い。体調を崩さない範囲で大いに旧交を温めることとし、斎藤嘉明君(漁)の乾杯のご発声で宴会に入った。

「近況報告」

宴会が佳境に入ったところで、幹事・斎藤勲さんの進行にて、出席者全員が近況報告。学生時代の今になって言えること、体調及び健康のこと、趣味のこと、孫の話などそれぞれの人生の一端をお話いただき、大いに笑いまた認識を新たにする楽しいひとときであり、残された人生を元気に有意義に過ごすこと再確認することができた。家庭菜園や自然の土いじりの趣味の人が多いように感じた。我々が子供のころには、まだ田舎の風景が残っており、家の近くの小川に魚がいたし、田んぼ・畑がたくさんあった。それらに対する郷愁があるかも。

「都ぞ弥生・水産放浪歌高吟」

小生中山の前口上により“明治45年寮歌・横山芳介君作歌…「都ぞ弥生」”、“富貴名門の女性に恋するを…「水産放浪歌」”を高らかに歌い1次会を締めた。全員が肩を組み、輪になっての歌は最高だね。また北大の水産は最高だね。元気をもらった。

「次回開催」

代表幹事中山の指名により、次回幹事は水戸孝夫君(漁)にお願いしました。従って次回開催は函館です。なお、3年後をめどにしますが日時・場所・開催方法は次回幹事に一任とします。

水戸さんより“快く受諾”的挨拶がありました。

「2次会・カラオケ」

場所を替えて2次会にはほぼ全員が参加し、その後カラオケに移行する人も多く、幹事・成田さんの司会の下、時間を忘れて楽しみました。皆さんお休みは零時すぎのようでした。

「おわりに」

宮本建樹君(増)は余市より宿泊なしで参加してくれました。また、水島幸一君(漁)も腰痛にもかかわらず参加して頂きました。さらに、翌朝、岩見沢市栗沢から高橋忠雄君(増)が車でホテルまで駆け付けてくれて旧交を温められた。次回函館で全員が元気に再開できることを約束し解散しました。古希を過ぎると、体力・気力が衰えるのは必然ですが、できるだけ衰えを遅らせるためにも、人と会って刺激を受け、生きるモチベーションを上げることも必要な

クラス会 報告

年代となりました。人生は気力だ！次回も多くの方の参加を希望します。

なお、前回と同様、参加できなかった方の近況コメントを載せた「同期会の葉」(幹事・成田さん製作)を配布するとともに、不参加で近況コメントを寄せてくれた方にも後日、当日の記念写真を添えて送付しました。

最後になりましたが、この同期会が無事終了できることは、学科幹事の皆さんのご協力の賜物と感謝申し上げます。

「参加者」(幹事以外)

遠漁:河原武則、菊川哲行、深井尚武、藤井真一



藤井尋志
漁業:大畑邦彦、小田島俊一、齋藤勝、齋藤嘉明
畠山公英、松井貞美、水島幸一
水戸孝夫、山崎宏、横堀一男
食品:辻昌己、中井俊雄、水内規子、横田建彦
化学:梅津美智弘、坂田周夫、嶋崎岩男、島竹毅一
原祐二郎、富久尾肇、町野剛
増殖:今井肇、大原楨子、小野寺武、駒崎洋介
田畠和男、西尾克彦、前川光司、宮本建樹
山口允彦

以上

【4列目左から】山口、齋藤嘉、水島、田畠、嶋崎
西尾、成田、水戸、畠山、大野
【3列目左から】島竹、前川、坂田、齋藤勲、原、辻
山崎、横田、中井、小田島
【2列目左から】宮本、今井、富久尾、梅津、町野、横堀
齋藤勝、松井、藤井真、河原、藤井尋、駒崎、眞田
【1列目左から】大畑、小野寺、水内、中山、大原
菊川、深井

第二回「漁火会」開催報告

吉田 康祐(昭44化)



「来年は、函館で逢おうぜ！」昨年札幌で実施した「第一回漁火会」で約束した二回目の開催が8月24日遂に実現しました。幸運にも会員飯野様の経営する居酒屋で、貸切にして頂いての開催となり盛大で楽しい中に懐かしく旧交を暖めました。参加会員の中には、半世紀振りに函館での再会となる方もおられまことに水産学部柔道部らしい豪快な心温まる会と

なりました。

前日札幌からJRで入った幹事の私は久し振りに函館山、西部地区、五稜郭、立待岬、松風町を歩き青春の日を共に過ごした同窓諸兄の顔が次々浮かび待ちきれない夜を過ごしたしだいです。当日、18時開催を待てず各地からこの日の為に久しぶりに青春の血をたぎらせたロマンと情緒に溢れる第二の故郷に集ったのは、遠く関西からも含めて11名の北水柔道部同窓の皆様でした。

式はまず、ご逝去された恩師河野先生、同窓軽部様、安部様のご冥福を祈り黙祷を致しました。久しぶりに我らの母なる唄「水産放浪歌」を安村様入魂の前口上で、腹の底から歌いましたが、母校のある地元函館で、万感を胸に唄うのはやはり胸にしみわたる格別の思いがありました。

全員、学生時代にもどり心が一つになった所で、東京よりご参加頂いた佐藤先輩(S36年入学、漁業、函館

出身)の元気いっぱいユウモア溢れる、心温まるご挨拶でよいよスタートしました。

テーブルの上には、この日の為に店主飯野様が奔走された地元の新鮮な魚が盛りだくさん！名物獲れたてイカに舌づつみ、杯を重ねるごとに学生時代にもどりいよいよ自己紹介の始まり。今回は、同窓のお店を貸切できた幸運もあり、全く時間無制限の抱腹絶倒の宴となりました。特に今回初めてご参加された方々は、実に味わい深い同窓の心に響くお話をされておりました。

大谷様は、自営会社でのヒット商品(梅入りゼリー、美味!)を全員分お土産に持参され一同大喜びでした。これまでの波乱万丈の人生ドラマをじっくりと話され感慨深いものがありました。

店主飯野様は、マグロ漁船に乗り込み世界を股にした後、地元函館に帰り奥様と苦楽を共に万代町に居酒屋「よしの」として店を開き幾星霧！来年いよいよ30年を迎える話に一同しんみり。

大先輩佐藤様は、恩師河野先生の我々の知らなかつた興味深い数々のエピソードを話され、まさに先生の教え「自己の鍛錬には、一歩も仮借せざる事。」を今こそ全員改めて噛みしめました。

特に共通の話で多かったのは連絡船での見送りでした。(当時柔道部では卒業し道外に出る部員を桟橋で送るのがならわしになって五色のテープ舞う中、出発の銅鑼が胸にしみたものでした。)懐かしい思い出にしんみりする中、部員についていたあだな(弁当、散髪、辰三---?)のついた理由がはじめてあかされ大爆笑の一幕もありました。ふと時計を見ると6時に始まった宴は何と10時30分！かたりつきぬ中、貸切の幸運もあり学生時代に戻り水産学部の伝統の「おす」を久しぶりにおこないました。スタートは慣れぬぎこちなさがありましたが、中山様の昔と変わらぬ腹の底からの大音響が響いてからは続々と往年のパンカラ青年の熱き男魂が炸裂致しました。

なごりつきぬ中、来年は札幌で開催する事を決め「都ぞ弥生」の齊唱にて、散会となりました。見上げると函館山の灯りが万代埠頭の漁り火が「又来いよ」と我々を暖かく照らしておりました。

平成26年度北水同窓会大阪府支部総会報告

北水同窓会大阪府支部長 田中 文夫(昭50食)



北水同窓会大阪府支部は、2年に一度の支部総会を開催し、総出席者69名で盛会に終了いたしました(他支部2名、大阪在住他学部同窓生9名、大阪府支部会員55名の多彩な出席者に恵まれました)。関西地区同窓会の特徴である、全学同窓会(北海道大学関西同窓会)、他学部同窓会との交流が活発です。お陰さまで多数同窓生が、お祝いに駆けつけていただきました。

今回は新船おしょろ丸V世竣工後の総会であり、きのとや製札幌農学校クッキー「おしょろ丸限定パッケージ」を全員にお土産としてお持ち帰りいただきました。竣工記念限定品で既に完売し入手困難な品物です。大阪府支部が特別に取り寄せたもので、出席者に大変喜んでいただくことができました。100名目標の強気の取り組みで120個用意し、残りは販売し完売いたしました。

出席者のご厚情に感謝し、その総会の概要を報告いたします。

【開催詳細】

日時 平成26年11月22日(金)
会場 うおまん・トップラウンジ
第一部 大阪府支部総会
第二部 講演会
講師 斎藤誠一氏(昭50ギ)
北大大学院水産科学研究院教授
演題・「宇宙から海を探る・衛星データのスマート水産業への利活用」「水産学部関連ニュースの紹介」
第三部 懇親会

クラス会 報告

【支部総会報告】

支部長田中の開催宣言で開始し、来賓北大関西同窓会会长遠藤彰三様より祝辞を戴き、我が北水同窓会の行動力、結束力の高い評価を戴きました。

支部長には引続き田中が選任され、更に新たな役員として、顧問・島田好彦氏(昭47ギ)、藤田信良氏(昭48ギ)、理事・室井智子氏(昭50食)、玉置純氏(昭51ギ)、幹事・梅田教生氏(平7食)、会計・福澤朋氏(平20資)に就任いただきました。新旧役員が中心となって支部同窓会活動を活発に活動していきます。

【講演会報告】

講演者の斎藤教授は、北水同窓会幹事長で全学の同窓会活動のリーダーシップを執っています。またTBSテレビ「夢の扉+」で放映された、衛星データーの活用による“スマート水産業”の研究成果の紹介を受けた。漁師の職人技の勘や経験依存型から、ITC技術で“見える化”漁業の活性化の取り組みを、苦労話を交えて講演いただいた。

水産学部の近況報告では、おしゃろ丸V世の竣工、函館市国際総合水産・海洋総合研究センター竣工、スープーグローバル大学支援事業等の紹介があった。新船は、1,598トン、建造費約70億円、推進装置は従来のディーゼルエンジンに比べ電気推進装置を採用、最新の観測機器装備等の紹介を受けた。

【懇親会とまとめ】

北水同窓会大阪府支部は、同窓会員の身近に役に立つ同窓会として役割を果たしたく、毎月第3土曜日に月例会を定期開催してきました。又、多くの同窓生の参加できる場として、各種行事を数多く取り組んでき



ました。その成果が実りつつあることを感じる総会、懇親会になりました。

大阪府支部会員出席者55名、平成卒は15名と、現役で働く世代の多くの出席者に恵まれました。2年に一度の総会が定着し、同窓の集いを楽しみにしていただています。

各種行事を開催し参加いただく同窓生も増えてきて、今回の参加者につながったものと感謝しています。

行事の紹介

・特別講演会

平成25年11月5日(火)

会場 水産学部 講師 藤田信良氏(昭48ギ)

演題 「育成型クラブを目指して」

・第9回、第10回市民公開フォーラムの共催

平成25年6月15日(土)「乳酸菌のチカラ」

平成26年6月14日(土)「北海道開拓150年とこれから」

・北水同窓会定期総会:函館支部主催に出席

平成26年8月2日(土) 五島軒本店

新おしゃろ丸5世竣工祝いを兼ねて。

出席者13名。

懇親会では、各卒業年度毎に席を設け交流を図りながら、徐々に世代を超えた交流会となり大いに盛り上がりいました。他学部の同窓生、多くの来賓の方々の出席もあり、有益な異業種交流の場ともなりました。最後に「水産放浪歌」で円陣を組み、「都ぞ弥生」を歌って、お開きとなりました。二次会も同じ会場で開催し、20名の出席者が集い、各同窓生の近況報告の花が咲き、終始和やかな宴席となりました。

多くの出席者に恵まれ、無事総会を終了で来た事は、皆様のご支援があってとの事と深く感謝申し上げます。多くの同窓が気軽に、身近に集う北水同窓会大阪府支部の活発化を目指し、頑張っていく所存です。

■来賓の方の紹介

遠藤彰三様 北海道大学関西同窓会会长

伊藤靖久様 北海道大学関西エルム会理事

和田武夫様 札幌農学同窓会関西支部理事長

山口 翔様 北水同窓会愛知県支部長

■他学部卒業生お客様

石澤登様(農S37)、天知輝夫様(農S38)、日沖勲様(農S40)、松代徹也様(農S40)、福井明男様(理S40)、前田直臣様(理S43)吉良一明様(農S47)、植松高志様(工S48)、松下秀行様(農S54)

■講演者

斎藤誠一様(昭50ギ)

■大阪府支部会員

中山賢治(昭34セ)、川岸正次郎(昭34ギ)、大野正浩(昭36セ)、藤井明(昭36セ)、吉川圭一(昭44エ)、米谷孝治(昭44食)、入江和彦(昭45ギ)、上田稔(昭45化)、林良方(昭45ギ)、西川一義(昭46ゾ)、江島新(昭46化)、山仲春男(昭46食)、島田好彦(昭47ギ)、岡本洋一(昭48ギ)、富田整(昭48化)、藤田信良(昭48ギ)、室井智子(昭50食)、田中文夫(昭50食)、山本雅照(昭50ゾ)、中川武司(昭50ギ)、大村泰治(昭51食)、玉置純(昭51ギ)、北出弘(昭52ギ)、中進作(昭53化)、西本惠市(昭54ギ)、中井義二(昭54ギ)、金子哲郎(昭54食)、殿井鉄夫(昭55ゾ)、佐々木雅人(昭56化)、大橋人司(昭56ギ)、鈴木偉生(昭56ギ)、佐藤信光(昭57化)、廣瀬裕(昭59食)、楠山仁志(昭59ギ)、滝澤和宏(昭60化)、中田邦彦(昭61食)、村田泰克(昭62ギ)、吉田幸治(平元ギ)、井上英樹(平2ギ)、松谷隆昭(平2ギ)、吉村直孝(平3ゾ)、川邊一郎(平3ゾ)、小田哲也(平4ギ)、和阪顕(平6ギ)、梅田教生(平7食)、新瀬幾恵(平7ゾ)、堀越光晴(平8ギ)、藤原匠逸(平13生)、尾上律子(平14資)、中村拓真(平15シ)、占部正悟(平17資)、宇野陽子(平17生)、田原永英大(平18生)、諸岡謙介(平19生)、稻垣祐太(平21生)
総出席者69名

北水同窓会石川県支部会 報告

福嶋 稔(昭62ギ)



【前列左から】八重樫満(昭47ギ)、中道五郎(昭39ゾ)

福田俊彦(昭39ゾ)、高橋稔彦(昭39ゾ)

池田裕司(昭49ゾ)

【後列左から】福嶋稔(昭62ギ)、中川宙飛(平23海生)

大目慶一(昭55ギ)、魚住昭文(昭52ギ)

沢田浩二(平3ゾ)、岩本泰明(平4化)、永井優(平元ギ)

平成26年10月18日(土)午後5時半より、北水同窓会石川県支部会がJR金沢駅前加賀料理「大名茶屋」にて行われました。

中道五郎先輩の挨拶、乾杯の音頭で開宴し、その後参加者12名の自己紹介や欠席諸氏の近況報告を行いました。約10年振りの支部会ということで、江渡唯信(昭22ゾ)、米永時雄(昭31エ)両大先輩も出席のご返事をいただきましたが、1週間前の強い寒気襲来でご夫人やご本人の体調不良から、残念ながら急遽ご欠席となったことが大変残念でした。

石川県支部は、前支部長橋本志朗(昭29ギ)先輩のご逝去後、支部長の選任を行っていなかったため、支部長不在の状態でしたが、今回出席していただいた諸先輩の協議により、中道五郎氏が快く支部長の職をお引き受けいただきました。今後は、中道支部長のもと定期的に支部会を開催するよう努めていきたいと思っています。

支部会の最後には、会場フロアの他のお客様にご理解をいただいた上で、校歌、水産放浪歌など少し控えめの声量でしたが、出席者全員で歌唱し散会しました。

寄稿

危ないところだった — シーマンシップは男の美学である —

小野 達夫(平元ギ)

4年目3年生(1985年夏の函館)のできごとである。学校へはたまに行っていたので、運用実習という科目があることを知り、めずらしくも楽しく学業に励んでいたときの思い出である。励んでいただけあって、いろいろあったナント力学といったほかの科目がどのようなものだったか、全然記憶にないのであるが、この運用実習のことは今でも鮮明に思い出すことができる。ただ、この運用実習が「何学」という学問分野に属するものであるのか、さっぱりわからないのはどうしたことであろうか。ひょっとしたら、それは学問ではなかったのかも知れない。ともあれ、小野が一生懸命「運用実習」に取り組んだことだけは間違いない。「学」を勝手に付けさせていただきたい。何しろ大学で単位をいただいた数少ない科目のひとつであり、しかも成績は唯一の「優」だったのである。

カッター漕ぎである。

小野が学んだのは、カッターのほんのさわりだと思うが、エンジン音も振動もなく、12人が漕ぐだけで得られる思いもかけぬスピード。運用実習学とは、奥深くも楽しいものだと感じたことを覚えている。究めるには辛く厳しいことがあろう。さわりだけさわって楽しい思い出があるということ、なんと幸せなことだろうか。

同窓の学生のなかで真剣に運用実習学に取り組む者は少なかった。12人が力を合わせて漕いだら、さぞかしすばらしい走りが可能となるだろうに、水をなせるようにしかオールを扱わない者がいたことは嘆かわしい限りである。学究の徒として運用実習学を学ぶ者であれば、カッターの可能性を探究、あるいは実証してみたくなるのが、自然の成り行きではなかろうか。

カッター、1隻の建造費6百万円と習った。オール

一本5万円とも習った。カッターは木造で美しい品物なので、買おうとは思わなかったにしても小野が50歳にして初めて買ったクルマでさえ600万円(新車のプロボックス)もすることと比較すれば、決して高い代物ではない。片や工芸品。クルマはたとえプロボックス6台分の高級車といえどもただの工業製品。分野の違うものの同士を比較することには意味がない。オールも木工製品。材が何だったかは忘れたけれど、欲しいと思ったくらい美しい品物だった。あれを木刀のように振れるとしたら、佐々木小次郎など二三百回闘ったところで一回も負けないだろう。長いし重い代物である。現代の新素材ならさぞかし軽量でもっと安価なものが可能かも知れないけれど、「運用実習学」は伝統と歴史あるシーマンシップ関連の学問の一分野なので、多少金がかかろうが重かろうが、そういうものである。団扇じやあるまいし、水をかく面積を稼ぐためには、長くせずに、太くでもするのか?

あの日は帆走することになり、その名を天下に知られた○○井先生のご指導のもと、われわれは、勇躍帆を張ったのである。なんと素敵な走りであろうか。自分と前後の者が漕ぐオール以外の景色を見る余裕もあるし、風を切り水音だけ立てて疾走する帆走カッターに酔いしれていた。○○井先生も、常なく上機嫌である。

調子よく走らせ、津軽海峡を渡る予定ではないので、さて、そろそろ帰ろうかということで、変針しようとしたのであるが、どうも帰りたい方角にはカッターが走らない。帆走カッターは風上に向かうのが苦手なようである。先ほどまでの疾走は、ほんとうのところはただ単に風に落とされていただけだったのでないかと振り返るのであるが、○○井先生、どうなのでしょうか。

帆を下ろして漕ぎ始め、しばし後にふと気が付

くと、漕いでいない輩がいる。これはどういうことであろうか。皆で帆走カッターに酔いしれていたとばかり思っていたのであるが、船酔いしている学生がいるようである。なかには海洋汚染という大罪を犯しているばかものまでいるし、あろうことか、カッター様(600万円)を汚す罰あたりまでいるではないか。

もはやオールで水をかき回している場合ではないし、マメが痛いとか、滑ったこべった言っているときでもない。まして、のんびりゲロなんか吐いている場合ではない。まさに、「男の美学たるシーマンシップ」を發揮して、小野思うところの運用実習学の神髄である「一生懸命漕ぐ」べきときである。漕げ漕げ、学生ども。そうしないと、……

汽笛が鳴るのである。

小野は、操船はできないが、自転車には子供のこ

ろから乗っていて今でも上手に乗れる。自転車にはチリンチリンが付いていて、小野も子供のころには得意になってチリンチリンさせて乗ったものだ。しかし、おとなになってから、正気のときに鳴らすことは決してない。クルマでクラクションを鳴らしたこともない。船の場合、通常、不要不急のとき以外に汽笛を鳴らすことはない。あのとき、カッターで遭難しそうになっていたわれわれに聞こえた汽笛は、青函連絡船の警笛だったのである。

青函連絡船の針路を妨害するという、恥ずかしくもたいへん迷惑な某大学教授とその教え子たちになってしまったのである。ボート遊びは、五稜郭の池にでも行ってやるべきだった。

小野は、むちゃ漕ぎで、オール(5万円)を一本折りました。お咎めなし。

めでたし、めでたし。

木村 修先生(特、うしお丸一等航海士)が退職されました

うしお丸船長 亀井 佳彦(昭61ギ)

平成26年9月末日をもって、うしお丸一等航海士木村 修 先生が退職されました。木村先生におかれましては、昭和44年3月に旧本学練習船北星丸に甲板員として奉職以来、安全運航はもとより練習船教育や研究活動の援助に粉骨碎身され、さらには航海士の上級免状を独学で取得、その御功績により、平成13年に助手に昇格するとともに、うしお丸船長に就任され、同船の船体延長工事の際に監督職として現場の指揮にあたられました。

平成14年、北星丸が廃船となり、おしょろ丸・うしお丸の2隻運航体制後は、船体延長を完工したうしお丸の一等航海士に就任され、それまでに培つてこられた現場実践力や船舶運航能力を如何なく発揮され、常に効率的かつ安全な運航を目指し、歴代船長を支え、現うしお丸の運航体制の礎を築かれました。

定年間近の平成24年10月からは、当方のおしょろ丸代船建造監督職拝命による下船に伴い、船長代行職の重責を担っていただき、さらに平成26年3月末日での定年退職を切望されておられたにもかかわらず、おしょろ丸の代船完成が同年7月末日まで延期されたことから、代船完成まで特任助教として船長代行を続行いただき、陰ながらおしょろ丸V世建造に多大なる貢献をして下さいました。

木村先生は当方にとって、船乗りとしての師であり、また当方を力強く支えて下さる頼れる先輩でもありました。

今回、木村先生が退職されるにあたり、今まで受けた御恩に感謝の意を述べさせていただくとともに、45年間の御功労に対するはなむけの言葉を贈らせていただきました。

長い間、本当にありがとうございました。

書評

「日本人の食性」 食性分析による日本人像の探求

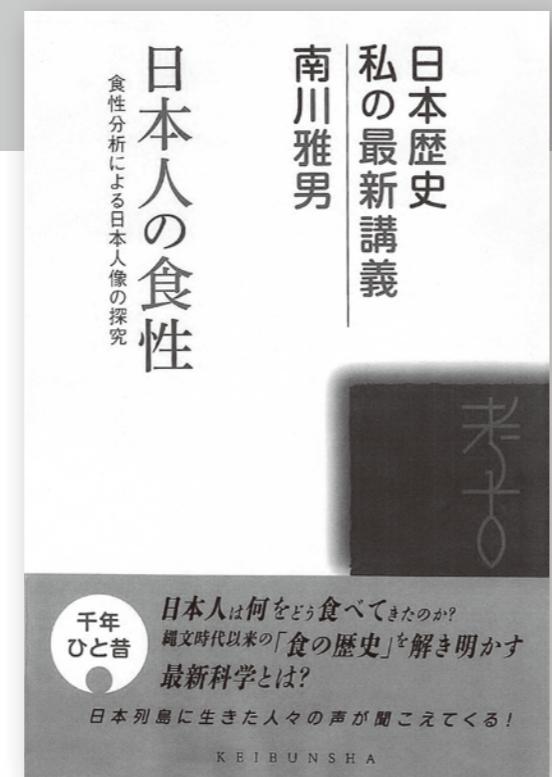
南川 雅男(昭47化)著

平成26年 敬文社

2011年3月末に北大大学院地球環境科学研究院を定年退職された南川博士が、安定同位体を使った研究成果を敬文社の「日本歴史 私の最新講義 11」として一冊にまとめられた。だが、考古学の専門の出版社から出たので、書店で歴史や食物学の書架に並んだのでは自然科学の読者の目を引き付けそうにはない。そこで地球化学を少しでも齧ったことのある後輩が書評を買って出ることにした。

本書の少し長い序章「食物利用のパターンを知る」では、窒素と炭素の同位体組成比($\delta^{13}\text{C}$ (デルタ13シー)と $\delta^{15}\text{N}$ (デルタ15エヌ))を用いて食物を分析し、複数の食品資源を混合利用してもその混合比を推定できることを見つめた。この方法は近年水産学でも広く使われており、南川博士は、こうして手に入れた $\delta^{13}\text{C}$ と $\delta^{15}\text{N}$ を用いて、その食物を食べていた人骨のコラーゲン中の窒素、炭素の同位体比を測定して類似性を比較することによって、日本人は何を食べてきたか、何を食べていこうとするのかの大きな謎の解明に立ち向かった。さらに本書は、第1章自然食の時代、第2章海洋動物資源を求めた人々、第3章歴史時代の食性、第4章現代日本人の食性、第5章食性分析法の成立、第6章食物利用のパターンを再現する、第7章日本人の食性の由来と未来、と30年余の研究成果が紹介されている。

例えば墓を同じくする縄文人はほとんど同じ食生活をしていたことが明らかになったが、同時代でも地域が異なれば食物資源の利用の仕方が違っていたり、同じ遺跡内でもまったく異なる食生活を送っていた人がいたことも明らかになった。北海道では海産物主体、本州・九州の海岸地方では植物・動物・魚介類の混合利用、本州の山間部では植物主体と異なった食生活が浮かび上がった。また、縄文時代の食生活



の地域差が今とは比較にならないほど大きかったことも明らかになり、これが縄文人の地域生態系への適応の結果であると結論付けた。

一方、弥生人はこの多様性が減少して本州以南では植物依存型の食生活の傾向がみられ、やがて寒冷化・乾燥化による自然生態系の変化が本州以南で大きく、豊かな資源が減少したために稲作の普及を助ける結果になったのではないか、と推定している。

特にこの本の狙いは同位体化学を食物に応用することではなく、日本人の食性に通底する自然観の問題であり、森林や海の、かつては無尽蔵と見えた資源を頼みにしてきた縄文的な精神が今日の日本人の非持続的な生き方に多大な影響を与えていることを指摘することであると著者は私信で述べている。

あとがきでは600万年にわたる命のリレーが、原人・旧人・新人の残した骨片が記憶となって食糧獲得のために絶え間ない工夫を続けてきたことを理解し、この同位体を使った食品分析を行って日本人の食物の考え方を解説することができるようになったことを述べている。まだまだ解き明かされるべき多数の、地域生態系だけでなく歴史と文化の謎が期待でき、やがて子供の絵本に載っている縄文人の生活の姿を描いた想像図が書き直されることになるかもしれないという知的な興奮を覚えた。

品川 高儀(昭49化)

□学位取得者

【平成26年6月取得】

取得者	論文題目
越野 陽介	遡河性サケ属魚類 <i>Oncorhynchus</i> spp.による陸域生態系への海由来栄養塩輸送に関する研究

【平成26年9月取得】

取得者	論文題目
秦 玉雪	北太平洋生態系におけるサケ属魚類の食性の時空間変異
伊藤 靖	人工魚礁における有用魚介類の巣集と増殖機能に関する研究
西宮 攻	Studies on mechanisms underlying the control of dual vitellogenin gene expressions in inshore hagfish (<i>Eptatretus burgeri</i>) (ヌタウナギにおける2種ビテロジェニン遺伝子の発現制御機構に関する研究)
高橋 秀行	小型底曳網漁業の労働実態の把握と改善に関する研究

【平成26年12月取得】

取得者	論文題目
石原(安田)千晶	Male-male competition in hermit crabs: Assessment of fighting ability with focusing on the role of major cheliped (ヤドカリのオス間闘争: 大鉗脚の機能に着目した闘争能力の評価戦略)
マチュラ ラバイデン	Elimination of foodborne pathogens from oysters using electrolyzed seawater (食中毒原因微生物を対象とした電解海水によるカキの浄化)
宮園 章	北海道、噴火湾における麻痹性貝毒原因プランクトン, <i>Alexandrium tamarensis</i> の生態学的研究

□会員の異動

○平成26年9月1日 付

高木 力 水産科学研究院教授に採用

○平成26年9月30日 付

木村 修 水産学部附属練習船うしお丸特任助教が退職

会員死亡通知

松本 信 (昭13セ)	平成16年11月13日	ご家族様より
岡田 錠一 (昭16ヨ)	平成20年頃	ご家族様より
吉岡 平太郎 (昭16ヨ)	平成26年 5月17日	ご家族様より
山田 鉄男 (昭18ギ)	平成26年 9月24日	ご家族様より
國米 学 (昭20エ)	平成26年 5月30日	ご家族様より
小林 俊夫 (昭22ギ)	平成25年12月31日	市川 渡(昭22ギ)様より
青木 清一 (昭23ギ)	平成27年 1月19日	ご家族様より
服部 晴夫 (昭23ギ)	平成26年 8月16日	ご家族様より
佐藤 信 (昭24セ)	平成26年 8月23日	ご家族様より
近藤 洋司 (昭24セ)	平成26年11月 2日	ご家族様より
長澤 正徳 (昭24セ)	平成26年 4月23日	ご家族様より
原田 和民 (昭24ゾ)	平成26年 4月21日	ご家族様より
畠沢 隆平 (昭25ギ)	平成26年 9月 4日	ご家族様より
松尾 成美 (昭25教セ)	不明	ご家族様より
上河 瞳美 (昭25ゾ)	平成26年 4月15日	出雲政志(昭25ゾ)様より
佐多 進 (昭26エ)	平成26年 8月17日	前田辰昭(昭26エ)様より
高橋 貞弘 (昭26エ)	平成26年12月17日	前田辰昭(昭26エ)様より
甑岳 郁男 (昭26セ)	平成26年 9月 9日	ご家族様より
堤 浩二 (昭26セ)	平成26年 9月16日	ご家族様より
安達 泰蔵 (昭26教セ)	平成26年10月12日	伊勢良一(昭26教セ)様より
森本 博之 (昭26ゾ)	平成26年 1月20日	川端昭治(昭26ゾ)様より
梶沼 孟彦 (昭26教ゾ)	平成26年10月10日	川端昭治(昭26ゾ)様より
眞田 博美 (昭28セ)	平成26年10月 6日	吉田弘司(昭28セ)様より
田中 満穂 (昭29ギ)	平成27年 2月 6日	鈴木賢次(昭29セ)様より
天方 英雄 (昭29ゾ)	平成26年 9月30日	鈴木賢次(昭29セ)様より
入江 恭 (昭31セ)	平成26年 6月 3日	吉野秀男(昭31エ)様より
川崎 昭七 (昭31セ)	平成26年 6月18日	ご家族様より
武内 弘 (昭33エ)	平成26年10月 3日	泉 敏博(昭33ギ)様より
伊藤 演 (昭34ギ)	平成27年 1月10日	ご家族様より
坪田 芳男 (昭35ギ)	平成23年 5月 8日	ご家族様より
大西 喜代治 (昭37セ)	平成26年 9月 7日	ご家族様より
中島 武康 (昭38セ)	平成26年 5月31日	ご家族様より
山崎 茂 (昭38ゾ)	平成26年 8月 6日	ご家族様より
鶴本 多次郎 (昭41セ)	平成26年 4月17日	林 征一(昭41セ)様より
関本 正明 (昭43食)	平成26年 7月 1日	北清勝昭(昭43食)様より
深澤 武浩 (昭43食)	平成27年 2月 2日	成田安孝(昭43ゾ)様より
遠藤 元文 (昭44エ)	平成26年12月26日	内藤義和(昭44エ)様より
福田 裕 (昭44化)	平成26年11月13日	ご家族様より
渡辺 健治 (昭46ギ)	平成26年11月24日	宮島英雄(昭42ギ)様より
石倉 純 (昭47ギ)	平成27年 2月 9日	佐藤啓一(昭48ゾ)様より
吉田 悟郎 (昭48ギ)	平成26年10月 6日	浅野一彦(昭45ギ)様より
宮本 芳則 (昭48食)	平成26年 8月	桜井泰憲(昭48ゾ)様より
田坂 嘉章 (昭55化)	平成26年 1月	ご家族様より

親潮投稿規定

【寄稿・支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛に封書で郵送するか、同窓会のメール宛に送付することとする。

【同窓生の声】

同窓会誌に対する意見、感想などについての投稿とする。個人的な連絡は掲載しない。一つの原稿につき300字までとする。同窓会宛のメール(alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp)のみ受け付ける。写真は入れられない。

【編集後記】

平成26年度「親潮」第2号(通算304号)をお届けします。

特集「北水の今」では、平成26年12月に新築された七飯淡水実験所について、その沿革、新しい施設、設備などの紹介とともに掲載いたしました。竣工後のお忙しい中、山羽悦郎七飯淡水実験所長には無理を言って原稿の執筆をお願いし、快く引き受けいただきました。また、施設長を務められた小野里坦先生、原彰彦先生には本号の掲載に間に合うよう原稿や貴重な写真を準備していただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

函館キャンパスに目を移してみると、現在、メインの建物である管理研究棟の全面改築が進行中です。五稜郭の桜が満開となる頃には、完成の運びとなります。6階建てであることは変わらないものの、各研究室のフロア配置はこれまでのものと大きく異なります。函館にお越しの際には新しい研究室に立ち寄る楽しみも加えていただければと思います。

平成27年度第1号は通算305号目の親潮になります。原稿の締め切りは平成27年7月10日(必着)とさせていただきます。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール(alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp)にて受付しております。支部報告や同期会報告、著書の紹介など、皆様ふるってご投稿ください。詳しくは上欄の親潮投稿規定を御覧ください。

(編集幹事 / 井上 晶 平5化)

食中毒検査なら信頼と実績の中山薬品商会へ 一検体@1,000円~承ります。

NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD



株式会社 中山薬品商会

代表取締役 中山 一郎

本 社 〒040-0075 函館市万代町20番10号 PHONE (0138) 40-6275・FAX40-3939
釧路営業所 〒084-0903 釧路市昭和町2丁目15番地3 PHONE (0154) 52-4101・FAX52-4103
札幌出張所 〒065-0031 札幌市北3条東19丁目6番14号 PHONE (011) 299-5493・FAX299-5493

<http://nakayamayakuhin.jp>

いま豊かな食生活。
見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場

中水

青森中央水産株式会社

代表取締役社長 石川 栄一

〒030-0183 青森市卸町1番1号
鮮魚部 TEL 017(738)1281
冷凍部 TEL 017(738)8221
塩干部 TEL 017(738)5511
加工部 TEL 017(738)6581
企画部 TEL 017(738)1281
管理部 TEL 017(738)1181

ホームページ <http://www.aochuu.co.jp>



海洋土木株式会社

本社 東京都中央区銀座3-9-11
TEL : 03-3544-5511 <http://www.kaiyodoboku.com>

代表取締役 木實谷浩史 (54ゾ) 取締役副社長 石井直志 (49ゾ) 取締役札幌支店長 佐々木洋 (53ギ)
青森営業所長 山口伸治 (49化) 北陸営業所長 魚住昭文 (52ギ) 札幌支店部長 村井和明 (59ゾ)
技術部部長代理 日和久典 (平6ギ)

玉館竹田

食卓に函館の味を

株式会社

竹田食品

代表取締役 竹田 寿広

本社工場 函館市浅野町3番10号

TEL (0138) 43-1110(代) FAX (0138) 43-1113

札幌営業所 札幌市中央区北13条西19丁目1番1号(水産保冷配送センター3F)

TEL (011) 623-0990 FAX (011) 644-9910

竹田食品販売㈱ 東京都中央区築地7丁目5番3号(紀文第一ビル2階)

TEL (03) 6226-6820 FAX (03) 3545-2135

竹田食品販売㈱ 宮城県仙台市青葉区本町2丁目9番8号(日宝ビル5階3号室)

TEL (022) 772-1970 FAX (022) 722-1987

竹田食品販売㈱ 大阪府大阪市淀川区西中島4丁目3番5号(NLCセントラルビル5階)

TEL (06) 6307-5311 FAX (06) 6307-5358



交通事故、労働災害、医療過誤、倒産、債務整理、サラ金破産
個人再生、未払い残業代請求、離婚、相続、遺言、成年後見

相談料は全て無料です

吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世
(昭和48年増殖学科卒業)

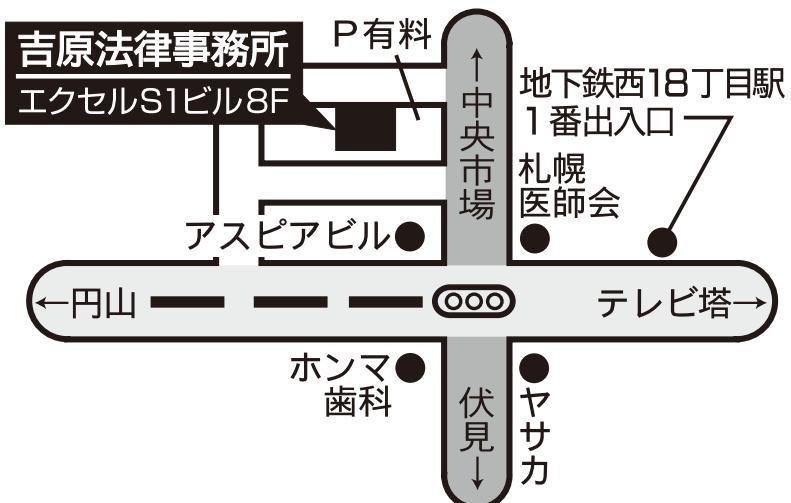
お気軽にお問い合わせ下さい

TEL 622-7963 FAX 622-8414

札幌市中央区大通西20丁目2-20(エクセルS1ビル8F)

(交通)東西線西18丁目地下鉄1番出口

(E-mail) lawyer@yoshihara-lawoffice.jp



営業時間においでになれない方はご相談下さい。